

ヘモグロビンA1c (Hb A1c) 報告書への溶血コメント追記のお知らせ

謹啓 寒冷の候、先生方におかれましてはますますご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素から格別のお引き立てを賜り厚くお礼申し上げます。

この度、日本糖尿病学会糖尿病関連検査の標準化に関する委員会より『遠心処理後に測定するHb A1c測定法での採血管の取扱い』に関する通達がありました。
その通達内容と当センターの対応につきまして下記の通り報告いたします。
今後とも当センターをご利用いただきますようよろしくお願い申し上げます。

謹白

記

◆通達内容の要約

採血管を一度遠心し、赤血球層を使用する測定法において、全血検体のまま長時間冷蔵保存し輸送した場合、赤血球が溶血しHb A1cが低値になる。
特に、著しい溶血（溶血血漿中のヘモグロビン濃度0.5g/dL以上）が確認された場合、参考値として取り扱うこと。

◆対象項目：ヘモグロビンA1c (Hb A1c) 項目コード：3098 検査案内掲載ページ：92P
検査方法：酵素法（遠心後、赤血球層を使用する方法）

◆対応方法

Hb A1c検体に著しい溶血（溶血血漿中のヘモグロビン濃度0.5g/dL以上）が確認された場合、結果値に「参考値」というコメントを付けます。
尚、報告書の記載は「& : サンコウチ」となります。

◆注意事項

検体の溶血リスクを低減させるため、採血直後にゆっくり転倒混和し（5回以上）冷蔵で48時間以内にご提出ください。

令和4年1月